

平成 23 年（2011 年）の雲仙岳の火山活動

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2011 年の活動状況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

噴気活動は低調で、噴気の高さは 10～20m（最高高度は 100m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3、表 1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○発表中の噴火予報・警報及び噴火警戒レベル

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 17 分	噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）
----------------------------	--------------------



図 1 雲仙岳 噴気の状態（赤丸）（2011 年 12 月 19 日、野岳遠望カメラによる）

この資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、九州大学及び長崎県を経由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

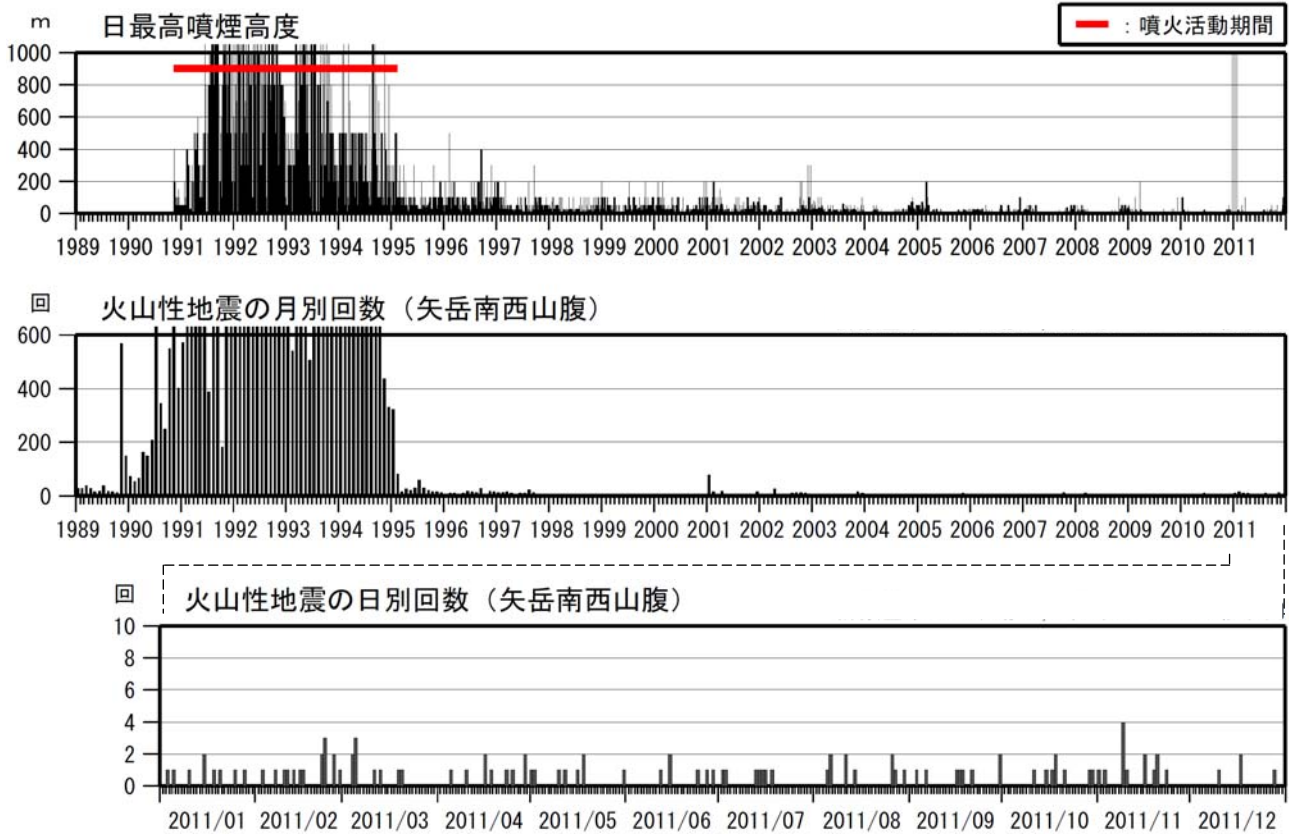


図 2 雲仙岳 火山活動経過図 (1989 年 1 月～2011 年 12 月)
 1995 年 2 月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

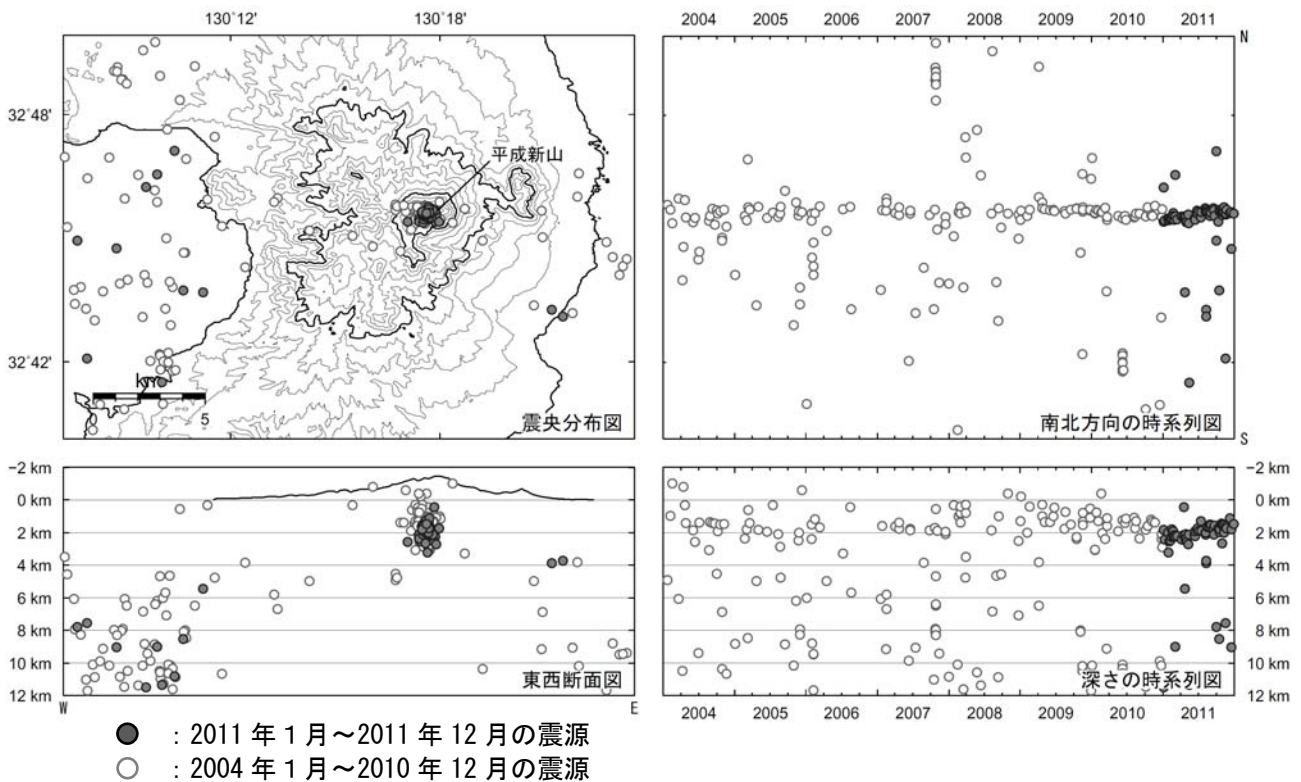


図 3※ 雲仙岳 火山性地震の震源分布図 (2004 年 1 月～2011 年 12 月)
 <2011 年の状況>
 震源は主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

表 1 雲仙岳 2011 年火山性地震日別回数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
2日	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
3日	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
4日	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5日	1	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0
6日	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
7日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
10日	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1
11日	0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0
12日	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
13日	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
14日	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
15日	2	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0
16日	0	1	0	2	1	0	1	0	1	0	2	0
17日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
18日	1	0	0	1	2	0	1	0	1	2	0	0
19日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
20日	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
21日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
22日	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23日	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
24日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
25日	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
26日	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
27日	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
28日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
29日	0	/	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0
30日	0	/	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0
31日	0	/	0	/	1	/	0	0	/	0	/	0
月合計	9	15	9	9	8	6	7	10	8	8	13	4
年合計	106											

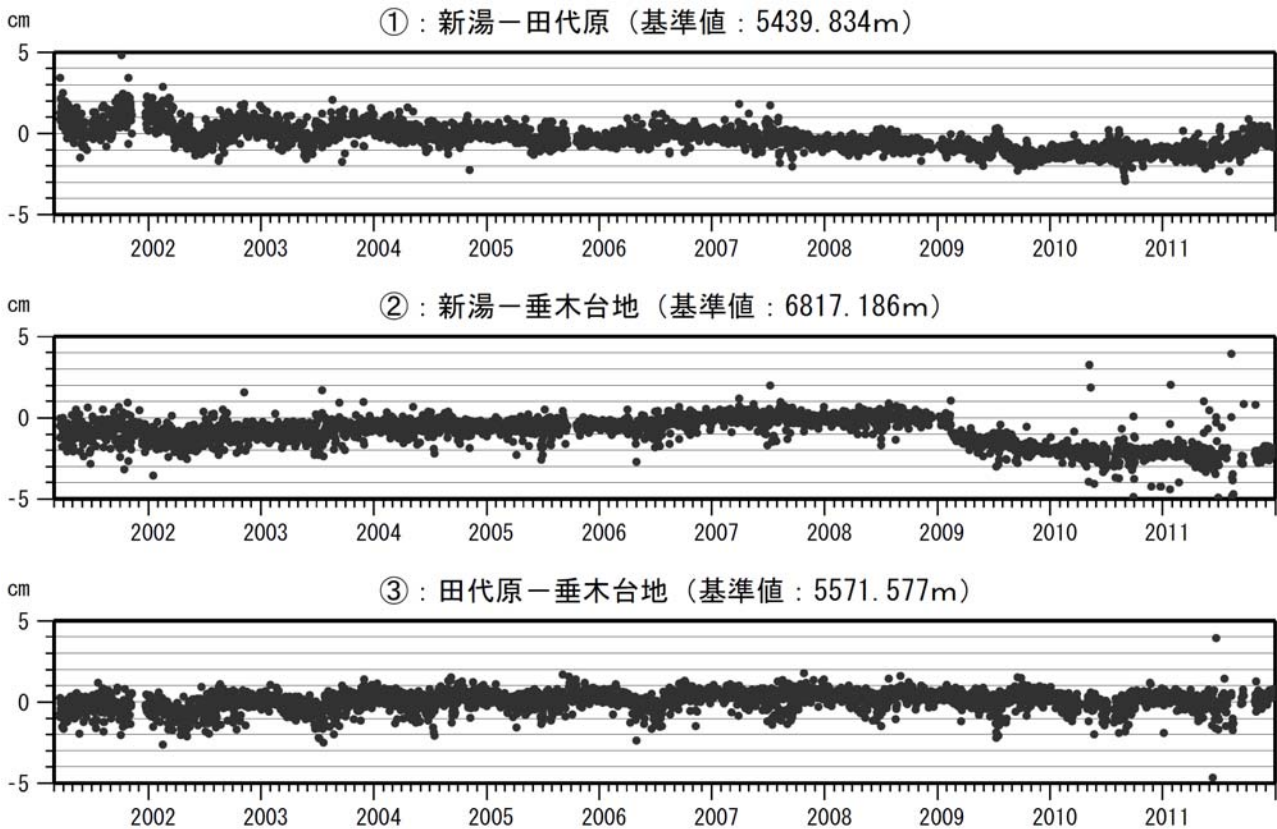


図 4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月～2011 年 12 月)

<2011 年の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 5 の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる 2009 年 2 月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

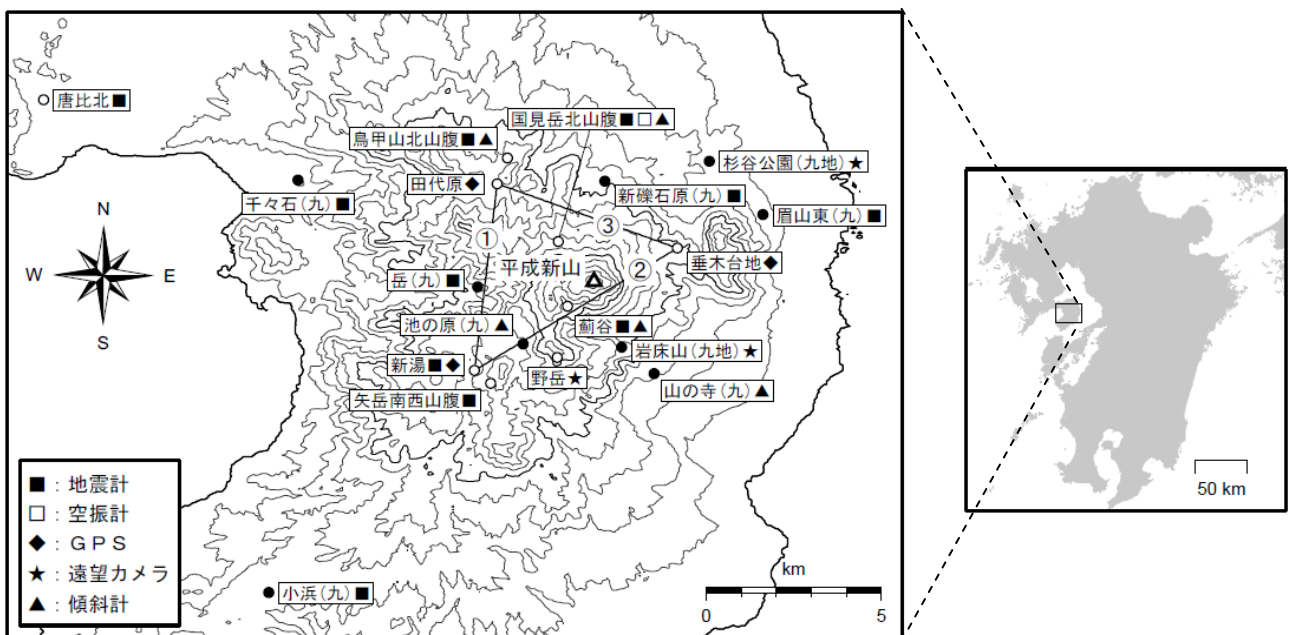


図 5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学

表 2 雲仙岳 気象庁（火山）観測点一覧（緯度・経度は世界測地系）

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月	備考
		緯度 (° ')	経度 (° ')	標高 (m)			
地震計	新湯	32° 44. 30′	130° 15. 75′	678	0	1994. 3. 25	長周期
	矢岳南西山腹	32° 44. 10′	130° 16. 05′	769	0	1967. 4. 1	短周期
	国見岳北山腹	32° 46. 31′	130° 17. 31′	834	-124	2010. 12	短周期
	鳥甲山北山腹	32° 47. 60′	130° 16. 35′	655	-150	1992. 5. 20	短周期
	薊谷	32° 45. 30′	130° 17. 45′	1, 075	0	1997. 4. 1	短周期
	唐比北	32° 48. 50′	130° 07. 87′	66	0	1992. 4. 4	短周期
空振計	国見岳北山腹	32° 46. 3′	130° 17. 3′	834	2	2010. 12	
GPS	新湯	32° 44. 3′	130° 15. 8′	678	2	2001. 3. 1	二周波
	垂木台地	32° 46. 2′	130° 19. 5′	586	2	2001. 3. 1	二周波
	田代原	32° 47. 2′	130° 16. 2′	640	2	2001. 3. 1	一周波
傾斜計	国見岳北山腹	32° 46. 31′	130° 17. 31′	401	-124	2010. 4. 1	
遠望カメラ	野岳	32° 44. 5′	130° 17. 3′	1, 142		2002. 1	